

市町村名	学校名等	活動の区分	
大和郡山市	大和郡山市立片桐中学校	学校支援	放課後 子ども教室
(住所) 奈良県大和郡山市小泉町173-1 (電話) 0743-54-2666			○
(活動の概要) 本事業の趣旨に基づいて、子どもの人権意識の育成と社会性を培うため子どもと地域の大人や保護者をはじめ教育関係者等がともに様々な体験活動を通して地域の教育力の向上に取り組んだ。活動内容については、指導者会議で地域の実態、児童生徒の状況、去年度の反省等に基づき決定した。具体的には、防災体験・異文化交流・ボランティア体験・物づくり体験等であった。主に休業日、放課後の実施であるだけに開催時期・内容について配慮した。			

《放課後子ども教室》

- 1 【教室名】 片桐中学校区子ども人権フォーラム
- 2 【該当校区】 大和郡山市立片桐中学校区
- 3 【活動場所】 西田中町ふれあいセンター・片桐中学校・片桐西小学校等
- 4 【活動状況】 年間39回 実施
- 5 【参加児童・生徒数】 出席児童・生徒数 のべ935人
- 6 【活動支援スタッフ体制】
学習アドバイザー8人 安全管理委員2人
- 7 【安全管理体制】
安全管理員として2人を配置。

8 【主な活動内容】

○夜間中学校生と交流しよう 6月

生徒と夜間中学校生と交流を行い、文字を学ぶことの大切さを生徒さんから学び、異文化について学習を深めることができた。



○うまいもんパーティー 7月

人権フォーラム最大の行事。社会福祉協議会の協力を得て事業を行っている。

当日までポスターをはったり、買い物をしたり準備の段階から子どもたちは地域を歩いた。当日は地域の食材を使った料理（昔ながらの味）を作り、高齢者と子ども、地域の方々とふれあいながら食をともにした。地域の食文化を伝えること、地域を知ること、つながりをもつことの意義を感じる。

○野外活動 7月（3中合同）

大和新発見の会の皆さんを講師として招いて竹を使った遊び道具やコップ、箸作りなどを体験した。またお昼には竹込みごはんを作っていた。この取組を通して、人との協力の必要性や家族のつながりを考えることができた。また地域の指導者との交流も深まった。

○太鼓をたたこう 7月～12月

和太鼓をたたく練習を通してやり遂げる喜びを感じたり、自尊感情を高めることができた。また韓国の太鼓チャンクの演奏や扇舞（プチュチュム）を通して、様々な人々と交流したり、外国の文化を多くの人に（ふれあい祭り・敬老会・校内文化祭などで）伝えることができた。

○中国との出会い 8月

中国にルーツを持つ講師の指導の下、水餃子の皮作りから始め、あんを詰めながら「中国では餃子を焼くのではなく茹でて食べるんだよ」と違いを教えてもらいながら、子どもたちは楽しく作業を行った。試食も盛り上がり、本場の味に感動を覚えた。今回も外国の文化・習慣を知り国際理解をさら

に深めることができた。

○防災意識を高めよう 国際理解 8月

神戸にある「人と防災未来センター」を訪れ、見学・聞き取りを通して震災について学び、生命（いのち）について考える機会となった。この事業で 防災知識について学び防災意識を高めることができた。

この日の午後は、南京町を散策。屋台で味わう中華料理を満喫しながら、「你好！」に挑戦する参加者の姿も見られ、日本にいても中国と出会い、中国と親しんできたことを改めて感じる事ができた。

○敬老会 秋祭り 9月 10月

社会福祉協議会の協力を得ての事業。敬老会では小・中学生の和太鼓やプチェチュムを披露。和太鼓の迫力と、韓国の華麗な衣装をまとった扇の舞は高齢者の方々に大きな感動を与えた。同時に韓国文化を紹介することもできた。

秋祭りでは、和太鼓演奏、小学生があてもものの模擬店を出したり、中学生と教師がチヂミの店を出して地域の祭りに参加。地域の方とのふれあいが人間関係を豊かにしていった。

○ならサンウリム 11月

出会いとつながり、多文化共生の祭り。外国にルーツをもつ多くの人々との出会いがある。ここでもマダンに参加し和太鼓とプチェチュム、サムルノリを披露。チヂミと中華風焼きそばの店を出し、全員で活動し協働の喜びを感じた有意義な1日であった。



○地域の高齢者に年賀状を書こう

社会福祉協議会の「お年寄りの見守り事業」の一環。子どもたちが工夫を凝らし心を込めて書いた年賀状。元旦の朝、毎年届けられるのを楽しみにしておられる。

○昔の遊びをしよう 1月

児童・生徒と高齢者が昔の遊びや正月遊びを通じて世代間の交流を行った。



○奈良県子ども太鼓フェスティバル2011 1月

○ブラジルとの出会い 2月

講師を招き、ブラジルのお菓子を作った。そのお菓子をいただきながら、国旗を見せてもらったり 文化についてお話を聞いた。「ブラジルの子どももこんなお菓子を食べているんだよ。ブラジルの子が食べているものを変なものと言わないでね・・・その言葉で学校に行けなくなっている子もいるんだよ・・・」最後に話された声は優しいが、マイノリティの子どもたちの痛切な心を伝えられた言葉であった。

○夏期・冬期中の学習会

休み中5日間くらいの日程をとって学習会を行う。基礎学力をつけることも課題であるため、ここ数年続けられている。

